

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3123651号  
(U3123651)

(45) 発行日 平成18年7月27日(2006.7.27)

(24) 登録日 平成18年7月5日(2006.7.5)

(51) Int. Cl. F 1  
B 6 5 F 1/00 (2006.01) B 6 5 F 1/00 1 O 2 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2006-3758 (U2006-3758)  
(22) 出願日 平成18年3月6日(2006.3.6)(73) 実用新案権者 594042549  
上野 栄一  
埼玉県加須市久下3丁目2番13号  
(72) 考案者 上野 栄一  
埼玉県加須市久下3丁目2番13号

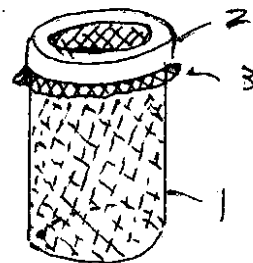
(54) 【考案の名称】 生ゴミ処理装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】容器から底面を取除いて、容器の底面を汚す事なく、生ゴミを回収する事が可能となる、一般家庭の調理場において用いられる、生ゴミ処理装置を提供する。

【解決手段】筒状ケース1の内部に水切り袋3を挿入して、水切り袋3の開口部を筒状ケース1の内側からめくって、筒状ケース1の上部にかぶせ、その上から水切り袋固定枠2を取付けて、水切り袋3の開口部を開いた状態に固定させて、水切り袋3の中へ生ゴミを投入して生ゴミを収容するが、生ゴミに充たされた水切り袋3を筒状ケース1から取出した場合、本考案の生ゴミ処理装置に於ける筒状ケース1には、底面がない為、従来の生ゴミ収容器に於いて、最も汚物の付着し易い底面を汚す事がなく、調理場の清潔を維持する為に役立つ。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項1】

筒状のケースの中に水切り袋を、水切り袋の開口部を上にして挿入し、水切り袋の開口部を、筒状ケースの内側からめくって筒状ケースの上部にかぶせ、更に、筒状ケースにかぶせた水切り袋開口部の上から、水切り袋固定枠を取付けて、水切り袋開口部を筒状ケースの上部に、しっかりと固定させる事を特徴とする、生ゴミ処理装置。

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、一般家庭の調理場に於いて用いられる、生ゴミ処理装置に関するものである 10

## 【背景技術】

## 【0002】

従来から、一般家庭の調理場に於いての生ゴミ収容具として、三角コーナーと言われる、側面、及び、下面が、水切り網状になっている器具が置かれていたが、三角コーナーに生ゴミを投入する場合には、直接投入する場合と、水切り袋を取付けて、水切り袋の中へ投入する場合とがあるが、いずれの場合も、上方、及び、側面から生ゴミが見えて、調理場が清潔感に欠ける状態となってしまう、又、容器の底面には、生ゴミから生じた汚物が付着してしまう事となる。

## 【考案の開示】

20

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0003】

調理場に於いて、常に生ゴミが見えやすい状態にある事は、調理場に於ける清潔感をそこなう事になり、又、容器の底面に汚物が付着する事は、生ゴミ容器を常に清潔に保つ為には、底面の汚物を取除かなければならず、常日、大変手間のかかる事となる。

従って本考案は、生ゴミを外部から見えにくくし、容器底面に於いて、汚物が付着する、という状態を取除き、前述の欠点を解決しようとするものである。

## 【考案が解決する為の手段】

## 【0004】

本考案は、従来の生ゴミ収容具の欠点を取除き、目的を達成する為、筒状のケースを立てて、その上方から開口部を上にした状態の水切り袋を挿入し、筒状ケースの内側から水切り袋の開口部をめくって、筒状ケースの上部にかぶせ、更に、筒状ケースの上部にかぶせた水切り袋開口部の上から、水切り袋固定枠を取付けて、水切り袋開口部を、筒状ケースの上部に、しっかりと固定させる構造とする。 30

## 【考案の効果】

## 【0005】

上述のように、本考案に於ける生ゴミ処理装置は、筒状のケースを用いる事により、立長の形状となる為、流し台の中での生ゴミ収容の為のスペースは小さくできて、又、従来の生ゴミ容器と同等の生ゴミを、外部から見えにくい状態で収容する事が可能である為、調理場に於ける生ゴミによる不潔感を取除かれる、という効果が発生するが、本考案に於ける最大の使用効果は、従来の生ゴミ容器に於いて、最も汚物の付着し易い底面が存在しない事により、調理場に於ける汚物が無くなり、調理場を、衛生的に、清潔に使用する事が、可能となる。 40

## 【考案を実施する為の最良の形態】

## 【0006】

本考案に於ける生ゴミ処理装置は、筒状のケースを立てて、その上方から開口部を上にした状態の水切り袋を挿入して、筒状ケースの内側から水切り袋の開口部をめくって、筒状ケースの上部にかぶせて、その上から、水切り袋固定枠を取付けて、水切り袋の開口部が、筒状ケースの上部に、しっかりと固定された状態にしたうえで、生ゴミを水切り袋の中へ投入して、生ゴミを収容するものであるが、水切り袋の中が生ゴミで満たされた状態 50

になった場合、筒状ケースの上部に取付けた、水切り袋固定枠を取外す事により、筒状ケースの中の水切り袋も取出せる事になり、生ゴミは、水切り袋に充たされた状態で、生ゴミとして、処分する事となる。

【0007】

本考案に於いて用いられる筒状のケースは、流し台の形状に適用する為に、円筒形の筒状ケース、三角形の筒状ケース、四角形の筒状ケース、等の筒状ケースが存在し、又、水切り袋固定枠も、筒状ケースの形状に合った、円形、三角形、四角形、等の水切り袋固定枠が用いられる事となる。

【実施例】

【0008】

以下、添付図面に従って、実施例を説明する。1は耐久性のプラスチック等、適宜素材によって形成された筒状ケースであり、本考案に於ける生ゴミ処理装置の本体となる。

使用する際には、筒状ケース1の中へ、直接、生ゴミを投入する為の水切り袋3を、開口部を上方にして挿入し、筒状ケース1の内側から開口部をめくり、筒状ケース1の上部へかぶせて、その上から、筒状ケース1と同等の素材によって形成された、水切り袋固定枠2を、筒状ケース1の上部に取付ける事により、水切り袋3の開口部が、しっかりと開いた状態で筒状ケース1の上部に固定され、水切り袋3の中への生ゴミの投入が、可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本考案に於ける生ゴミ処理装置の、実施例を示す斜視図である。

【図2】本考案に於いて使用する、水切り袋の斜視図である。

【図3】本考案に於ける水切り袋固定枠の、斜視図である。

【図4】本考案に於ける筒状ケースの、斜視図である。

【符号の説明】

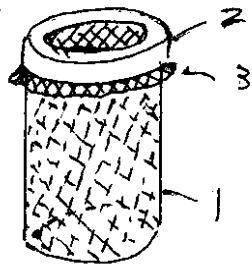
【0010】

- 1 筒状ケース
- 2 水切り袋固定枠
- 3 水切り袋

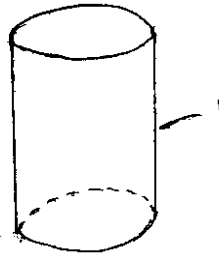
10

20

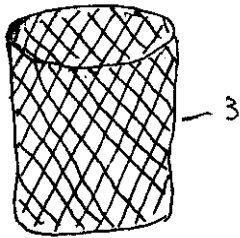
【 図 1 】



【 図 4 】



【 図 2 】



【 図 3 】

